

みんなで支える森林づくりニュース(第5号)

平成24年7月

みんなで支える「みえの森林づくり」を考える ミニ県民集会を開催しました

現在、県では森林づくりを社会全体で支える仕組みとしての新たな税制度について、検討委員会を設置して導入の是非も含めて検討を重ねているところです。5月31日に開催された第4回検討委員会では、『税導入が適当である』旨の判断がなされ、森林づくりに関する税検討委員会報告書(骨子案)がまとめられました。

そこで、県民の皆さんと三重の森林の未来について一緒に考えようと6月下旬から7月上旬にかけてミニ県民集会を開催しました。今回の森林づくりニュースでは概要とご意見を紹介します。

【開催日・場所】

①桑名会場(6/21) ②四日市会場(6/27) ③津会場(7/4)

【概要】

各会場ではそれぞれ20名程度の参加者があり、2つのテーマ(①三重県の森林の状況についてどう感じたか ②森林づくり(森林が持つ課題の解決)を支えるための新たな税の導入について)について意見交換を行いました。

【出された意見】

◆森林への理解促進について◆

- ・幼少期から中高生まで森林に親しみ、森林の働きを学ぶ必要がある。
- ・税金を導入する前に、もっと森林についての理解を深めるための働きかけが必要である。
- ・山の現状を広く知ってもらって、問題意識を持ってもらうことが大切である。

◆税の使い道について◆

- ・森林の分野だけでなく、教育や防災、観光の視点でも活用法を考えるべきだ。
- ・使途には透明性をもってほしい。
- ・現場でがんばっている人に還元するべきである。
- ・税で県民の山のような自由にに入れて体験も出来る場を作ってほしい。
- ・税で他県にあるような森林について学ぶ施設を作ってはどうか。(林業従事者を育成するシステム作り)
- ・循環の仕組みづくりを税で行い、後々は自立する産業にしていくべきである。
- ・県が税を投入して行う事業が国の事業の補足とならないよう、国とは別の考え方に基づいた、地域性を加味した使途でなければ理解は得られない。

◆その他◆

- ・税で行う事業の効果、森林の働き、なぜ税が必要なのか、などについて分かりやすい説明が必要である。
- ・税の徴収額やその使途についてHPで公表するなど「見える化」を図るべきである。
- ・モデル事業を行い、その結果をみてから税を導入するという考えもある。
- ・まずは森林所有者が自分の力で森林整備をするべきではないか。
- ・国土保全という観点から山づくりを考えなければならない。
- ・山林の境界が不明で、所有権の問題もあるため、なかなか整備に踏み込めないという課題の解消が必要である。



検討委員会の検討状況は、ホームページ「三重の森林づくり」でご確認いただけます。
詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/2012060032.htm>